福祉のまちづくり広報誌

ありば

VOL.52
2026

「バリア」の逆は「ありば」。
バリアフリーな社会を築くために、本誌はバリア反対!の意を込めて、
「ありば」というタイトルにしました。
みんなに住みよいまちを、みんなで築くために。
人と人のバリアフリーコミュニケーションをご紹介する広報誌、
それが「ありば」です。





表紙／「五月の風（こがつのかぜ）」
大原 雅代（おおはら まさよ）さんの作品

第72回県美展で、ハートフルの部・知事賞を受賞した大原雅代さんの「五月の風」。

作品のモデルとなったのは、大空を元気に泳ぐ「こいのぼり」です。細かく裂いた古布を使う裂織（さきおり）という技法でピンク色はコスモスの花のような優しい色合いを、青色は海をイメージして、さまざまな色を重ねて丁寧に織り上げました。

「心の色を大切にし、見ている人が楽しい気持ちになれるように作りました」と語る大原さん。作品には、日々の暮らしやこれまでの素敵な出会い、そして支えてくれる人たちへの深い感謝の気持ちを込めたといいます。

これからも作品を通して、たくさんの笑顔と温もりを届けてくれそうです。

CONTENTS

[特集]
障害者法定雇用率引き上げ
～あなたの「働きたい！」企業の「雇用したい！」を応援します！～ PAGE 1

ありばヒューマンドキュメント
下薗 左和子さん PAGE 3

ありば通心
一般社団法人ブレス
重心児デイサービスエンゼル PAGE 4

ハードルを越えて
上浦 和也さん PAGE 5

バリアフリー最前線
多世代交流施設「こころば」 PAGE 6

鹿児島県からのお知らせ
・農福連携マルシェ
・障害者保健福祉大会
・スポーツ・レクリエーション用具の貸出し
・アルコール関連問題啓発週間 PAGE 7

鹿児島県

令和8年7月1日から、障害者法定雇用率が引き上げられました!

特 集

法定雇用率とは・・・

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づき、企業や公的機関などの事業主に義務づけられている常用労働者に占める障害者の割合のことです。全ての事業主にはこの法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があり、この法定雇用率が令和8年7月1日から引き上げられました。

事業主	法定雇用率（R8.6月まで）	法定雇用率（R8.7月から）
民間企業	2.5%	2.7%
国、地方公共団体	2.8%	3.0%
都道府県などの教育委員会	2.7%	2.9%

国や県では、働きたいという障害者や障害者雇用に積極的に取り組もうとしている事業所を支援する取り組みを行っています！

3つの機関が、あなたの「働きたい!」企業の「雇用したい!」を応援します!

ハローワーク

仕事探しの支援及び障害者雇用の準備・定着支援

- 求人の紹介、相談
- 職業訓練の案内
- 各種助成金の案内 など

障害者職業センター

専門的な職業リハビリテーション支援

- 職業相談・職業評価
- ジョブコーチ支援
- 企業への支援 など

障害者就業・生活支援センター

仕事と生活の両面の継続支援

- 就業・生活の相談
- 職場定着支援
- 関係機関との連携 など

障害者就業・生活支援センター

【就業に関する支援】・働きたい、働き続けたい気持ちを一緒に考えサポートします。	【職場定着支援】・職場での困り事などの相談に応じます。	【生活支援の相談】・生活リズムや健康、お金のことなど、生活の相談に応じます。
【関係機関との連携】・関係機関と連携し、チームで支援します。	【企業への支援・調整】・職場環境の調整や本人への配慮について、企業と一緒に考えます。	【組織的なサポート】・就職後も必要に応じて、訪問や相談など長く働き続けられるように支援します。

働くことに悩みがある…
働き続けるための支援が欲しい!
生活のことも含めて相談したい!



POINT! 「働き続ける」ことを、仕事と生活の両面から支援します。

就職支援事例

精神障害のあるAさんは一般就労を希望し、障害者就業・生活支援センターの支援を受けながら就職活動に取り組みました。就職にあたっては、鹿児島県の「障害者雇用体験事業」を活用した職場実習を実施し、採用後はハローワークの「トライアル雇用制度」を利用しました。支援センターが、関係機関や企業との調整、実習中のフォロー、就職後の職場定着支援を継続して行ったことで、本人と企業双方の不安が軽減され、一般企業への就職と安定した就労の実現につながりました。

参考 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構ホームページ

障害者雇用体験事業

鹿児島県が実施する事業で、障害者雇用の経験がない企業を対象に、最長14日間の雇用体験の機会を提供しています。障害者就業・生活支援センターが、事業主に奨励金を、障害のある方には手当をお支払いします。

令和7年度雇用体験実績:
実施事業所102件
うち雇用移行62件
（雇用移行率60.8%）

ハローワーク

仕事を探している！
自分に合う仕事を見つけたい！
就職に向けて準備したい！



【求人の検索・紹介】 ・障害者専用求人（一般就労・就労継続支援A型事業）など	**【職業相談】** ・専門知識・技術を持つ職員がきめ細かな相談を実施 ・就職後の職場定着に向けた相談を実施	**【応募書類の作成支援・面接対策】** ・自己紹介シート（ナビゲーションブック） ・配慮事項の整理など
【職業訓練】 ・鹿児島障害者職業能力開発校 ・障害者委託訓練など	**【各種助成金の案内】** ・特定求職者雇用開発助成金 ・障害者トライアル助成金など	**【雇用保険の手続き】** ・ご本人からの申し出に基づき就職困難者として失業給付や再就職支援で優遇措置の場合あり

POINT! **専門的な職業相談・職業紹介や、就職後の定着支援等を行っています。**

ハローワーク（公共職業安定所）
ハローワークかごしま 障害者援助部門

〒890-8555 鹿児島県鹿児島市下荒田1丁目43-28
TEL：099-250-6071
開庁時間：平日8:30～17:15（土日祝、年末年始は除く）

障害者職業センター

自分に合う働き方を検討したい！
就職に向けて準備したい！
職場にうまく適応できるか不安がある…
休職からの復帰を目指したい！



【職業相談・職業評価】 ・面談や作業等を通して働く上での特性を整理し、自分に合う働き方や就職・職場定着に向けた取組みを一緒に検討します。	**【職業準備支援】** ・各種作業、ストレス対処やコミュニケーション講習などを通して、就職・職場定着に向けた支援を行います。	**【ジョブコーチ支援】** ・ジョブコーチが職場を訪問し、職場定着に向けてご本人・企業双方に支援を行います。
【リワーク支援】（職場復帰支援） ・うつ病等メンタル不調で休職中の方を対象に、各種作業や講習を通して、職場復帰に向けたウォーミングアップを支援します。	**【企業への支援】** ・雇入れから職場定着、職場復帰など障害者雇用の各段階に応じて支援します。	**【関係機関への助言・援助】** ・障害者の就業支援に取組む関係機関向けの研修、情報提供、助言等を行います。

POINT! **ともに安心して働けるよう、障害のある方と、障害者雇用に取組む企業双方を支援します。**

鹿児島障害者職業センター

〒890-0063 鹿児島県鹿児島市鴨池2丁目30-10
TEL：099-257-9240　FAX：099-257-9281
mail:kagoshima-ctr@jeed.go.jp
開庁時間：月～金 8:45～17:00（土日祝、年末年始は除く）

県内の障害者就業・生活支援センター一覧

センター名	所在地	対象地域	連絡先
かごしま	〒892-0838 鹿児島市新屋敷町16番217号 鹿児島県住宅供給公社ビル C棟2階217号	鹿児島市、日置市、 いちき串木野市、 三島村、十島村	電話:099-248-9461 FAX:099-248-9462 mail:kssc@kagoshima-swc.jp
なんさつ	〒897-0302 南九州市知覧町郡135	南九州市、 南さつま市、 枕崎市、指宿市	電話:0993-58-7020 FAX:0993-83-2858 mail:n-sc@po2.synapse.ne.jp
ほくさつ	〒895-0027 薩摩川内市西向田町11番26号	薩摩川内市、 阿久根市、出水市、 さつま町、長島町	電話:0996-29-5022 FAX:0996-29-5033 mail:hssc@kagoshima-swc.jp
あいらいさ	〒899-4332 霧島市国分中央1丁目4番23号 真奉会地域総合支援センター内 (ハローワーク国分隣)	霧島市、姶良市、 伊佐市、湧水町	電話:0995-57-5678 FAX:0995-57-5522 mail:airaisa-els@shinpoukai.or.jp
おおすみ	〒893-0006 鹿屋市向江町20番18号 ビーハイヴおおすみ2F	鹿屋市、垂水市、曽於市、 志布志市、大崎町、 東串良町、肝付町、 錦江町、南大隅町	電話:0994-35-0811 FAX:0994-35-0812 mail:soudan-oshigoto@ninus.ocn.ne.jp
くまげ	〒891-3601 熊毛郡中種子町納官4093番地7	西之表市、中種子町、 南種子町、屋久島町	電話:0997-28-3445 FAX:0997-28-3447 mail:kumage@yurisa.jp
あまみ	〒894-0036 奄美市名瀬長浜町5番6号 奄美市社会福祉センター4階	奄美市、龍郷町、大和村、 宇検村、瀬戸内町、喜界町、 徳之島町、天城町、伊仙町、 和泊町、知名町、与論町	電話:0997-69-3673 FAX:0997-69-3674 mail:ssa@kve.biglobe.ne.jp

ありば ヒューマンドキュメント



10年以上障害福祉に関わる下薗さん。高次脳機能障害への理解を深めるため、専門的な知識や支援技術を学び続けている。

リハステーションゆす/所長

［下薗（しもぞの）　左和子（さわこ）］さん

一人ひとりの可能性に寄り添う、利用者との関わり方

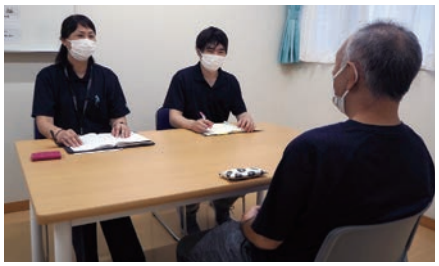
鹿児島市の「リハステーションゆす」では、高次脳機能障害のある方を中心に、日常生活や社会生活、就労に向けたさまざまな訓練を行っています。事業所の所長として勤務する下薗 左和子さんは、利用者一人ひとりのケアに徹底しながら、小さな変化を見逃さないようにスタッフ同士の連携を大切にしています。「多職種のスタッフがそれぞれの専門性を活かし、『チームとして支える』ことで利用者の強みや可能性が見えてくる」と下薗さんは話します。

現在の利用者は、生活訓練と生活介護のサービスで合わせて33名。朝のラジオ体操やミーティングから1日が始まり、45分を1コマとした訓練を個々に組み立てています。訓練の内容は、作業訓練や日常生活訓練、医学的な勉強、コミュニケーション訓練などさまざまです。施設の中だけでなく、歩行訓練など屋外活動も交えながら実際の地域生活を意識した訓練を行っています。

「もともとは高次脳機能障害を対象として立ち上がった事業所ですが、現在は身体障害や発達障害など、さまざまな障害のある方も受け入れています。障害名が同じでも、症状や困っていることは一人ひとり違います。『この障害だからこの支援』と決めつけるのではなく、その人自身の希望も聞きながら、必要な訓練や支援を考えることを大切にしています」。

「できない」から「別の方法ならできる」へ、挑戦の後押しをする

「できないことが一つあっても、それですべてができなくなるわけではありません」。リハステーションゆすでは、高次脳機能障害のある方の「できること」や「これからできる可能性」に目を向け、一人ひとりに合った方法や環境を一緒に考えています。また、就労支援では、仕事を紹介するだけでなく、見学や面接にも同行し、新たな一歩を後押ししています。今後は、「支援の専門性を高めるために、地域の社会資源をもっと見つけていくことも重要だと考えています。その人らしく心豊かな暮らしができる地域づくりに、これからも関わっていきたい」と思いを語ってくださいました。



利用者と話をしながら、一人ひとりの状態に合わせた訓練を行っている。



利用者同士の関わりの中で、他の利用者を気遣い、世話する様子も見られる。

〈高次脳機能障害とは?〉

高次脳機能障害とは、病気や事故などで脳が損傷を受け、思考・記憶・判断・感情などの認知機能に残る障害のことです。主な症状は、記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害など、症状や度合いは人によってさまざまです。また、見た目からは判断しづらいため、周囲に理解されず、叱責を受けたり、誤解されたりすることがあります。本人や周囲の人たちが障害を理解し、適切な対応をとることが大切です。

社会福祉法人　鹿児島県社会福祉事業団
リハステーションゆす
〒892-0836　鹿児島市錦江町3-7
電話 099-295-0415　FAX 099-295-0453

ARIBA tsushin

ありば通心

医療的ケアが必要な子どもたちと家族に、安心と笑顔の居場所を

一般社団法人ブレス 重心児デイサービスエンゼル

小児科医の代表理事・藤山りかさんと理事・長嶋康代さんが「医療的ケアが必要な子どもが安心して過ごせる場所を」との思いで立ち上げたのが「一般社団法人ブレス重心児デイサービスエンゼル」です。児童発達支援と放課後等デイサービスで、0歳から18歳までの重症心身障害のある子どもたちを温かく迎え入れています。一日定員5名体制で専門職のスタッフ7名がチームを組み、一人ひとりの個性と状態に寄り添った支援を行っています。

施設では安全なケアのために、家族から普段の様子を細かく聞き取ることを徹底しています。毎日の送迎や預かり時の情報を、朝の会でスタッフ全員で共有し、小さな体調の変化や違和感を一人で抱え込まず、常に話し合うことで異常の早期発見と安全確保に努めています。

中心スタッフである看護師の増山真奈美さんが大切にしていることは、病名や疾患ではなくその子自身をしっかり理解することです。人工呼吸器などに対応しながらも、病院のような治療ではなく「楽しく安心して過ごす日常の場」であることを意識し、公園へ出かけるなど子どもたちが日常的に経験するさまざまなことを、できるだけ体験しながらのびのびと過ごせる雰囲気づくりにも努めています。

理学療法士などと協力して、座る練習や歩行の練習をしたりと、「自分でできた」という経験を重ねる工夫も忘れてはいません。その結果として「できることを増やし、家族が抱える介護の負担を和らげ、前向きに生きるためのゆとりと安心感につながれば」と話します。

この仕事のやりがいは、「子どもたちの小さな成長や変化を家族と分かち合える瞬間にあります。寝たきりでおむつが外れないと思っていたお子さんがトイレトレーニングを重ねて自分で排泄ができるようになったり、表情豊かになる姿を見ると本当に嬉しくなります」とのこと。

「障害や病気があるからと最初から諦めず、不安は半分に、嬉しい経験は倍にしていきたい」と増山さんは話します。

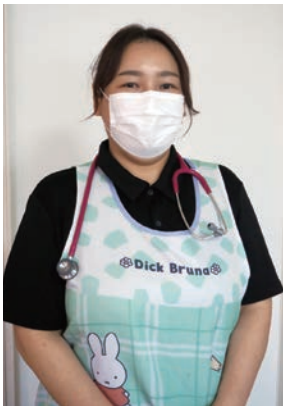
子どもたちがその子らしく豊かな時間を過ごし、誰もが安心して笑顔で暮らせるよう、エンゼルはこれからも温かい場所であり続けます。



子どもたちが安心して通える、バリアフリーに配慮された明るく綺麗な施設



緑豊かな公園や自然の中で外の空気を感じながら、みんなで笑顔あふれる屋外活動



子どもたちの個性に寄り添い、笑顔で温かなケアを届ける増山真奈美さん



小さな体調の変化も見逃さないよう、聴診器を使って日々の健康管理に努めている



理学療法士などのスタッフと話し合いながら、子どもたちのできることが増えるようサポート

一般社団法人ブレス
重心児デイサービスエンゼル
〒892-0871　鹿児島市吉野町2713-2
TEL：099-244-5150
重心児デイサービスエンゼル 検索



リレーエッセイ

ハードルを越えて 48

上浦（かみうら） 和也（かずや）さん
（薩摩川内市）

私は昨年の12月に開催された「第44回肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展」において、作品「癒されタイム」で金賞を受賞することができました。

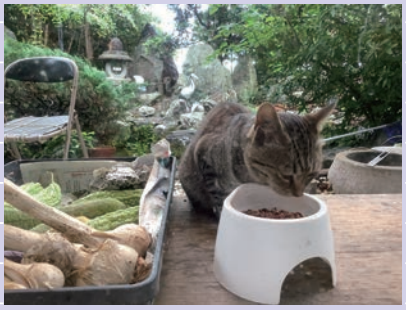
受賞の知らせを聞いたときは、「よっしゃー!」と心の中で大きな喜びがわき上がりました。嬉しくて学校の先生方や施設の職員の方々にも「金賞を受賞したよ」と報告して回り、周りの皆さんから「すごいね」とたくさん褒めていただいたことが、私の大きな自信につながりました。

私が初めて写真を撮ったきっかけは、中学校の宿題で「日常の風景を撮る」という課題が出たことでした。もともと猫が大好きで、自宅でも猫に囲まれて過ごしてきました。小学校5年生の時にウィルソン病を発症し、これまでのような生活ができなくなるという大きなハードルに直面しましたが、そんな大変な時でも、愛猫たちがいつもそばに寄り添って私を励ましてくれました。

受賞した写真に写っているのは、近所にやってくる野良猫の「茶々丸」です。警戒心が強くすぐに逃げてしまうため、驚かせないように息を潜め、タブレットの画面越しにご飯を食べているリラックスした瞬間をじっと狙いました。撮影の際には、姉や妹も協力してくれて、家族みんなに見守られながらシャッターチャンスを待ち構えていました。猫の一番いい瞬間や楽しい思い出を形として残せる写真には、大きな魅力を感じています。

現在、私は串木野特別支援学校の高等部に通っています。学校や施設では友だちと過ごす時間も楽しく、病気を発症してからは、支えてくれる周りの人々への感謝の気持ちがより一層強くなりました。いつも温かく見守ってくれる家族の存在は私の大きな支えであり、私を題材に書いた妹の作文が優秀な成績を収めて新聞に掲載されたときには、私もその記事を大切に写真に収めて、家族みんなで喜びを分かち合いました。

これからの目標は、「パソコンを使った仕事に挑戦してみたい」ということです。そして、これからも大好きな猫の姿や、旅行した時などの思い出をたくさん写真に撮り続けていきたいと思っています。家族の温かいサポートを受けながら周囲への感謝を忘れず、自分のペースで大好きな猫たちの素敵な瞬間をたくさん切り取っていきたいです。



金賞を受賞した作品「癒されタイム」です。すぐ逃げてしまう茶々丸を驚かせないよう、一瞬の隙を狙いました。



猫を撮る時間が一番楽しいです。大好きという気持ちを込めた一枚で、受賞することができました。

KAGOSHIMA

鹿児島のいろいろな建物や施設、
あるいは人の心の中にあるバリアが取り払われています。
一人ひとりが、より快適で自由な暮らしが営めるように。

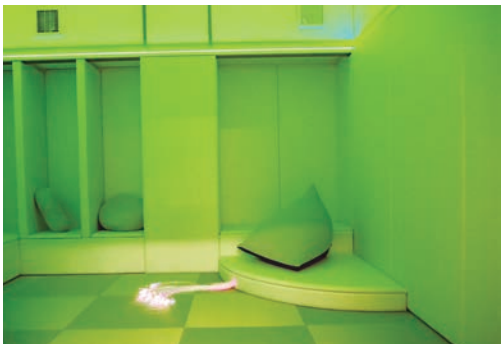
バリアフリー最前線

Barrier Free-Saizensen

一人ひとりの感覚に寄り添い
安心して過ごせるセンサリールーム

多世代交流施設 こころば

（志布志市）
志布志市志布志町志布志2-6-1
☎　099-478-5888
営　9:00～21:00（施設により異なる）
定休日　第2・4火曜
（祝日の場合、翌営業日代休）、年末年始
https://www.kokoroba-shibushi.jp



座る、横になるなど、自分に合った過ごし方を選べるセンサリールーム

あらゆる世代の方が交流できる「居場所」を目指して、志布志市の中心部に7月4日、「多世代交流施設こころば」がオープンしました。1、2階には大型遊具やデジタル遊具を備えたキッズパーク、3階にはコワーキングスペースやeスポーツ、交流スペースなどを設け、4階にはフィットネスジムを整備。遊ぶ、学ぶ、働く、健康づくりなど、それぞれの目的や過ごし方に応じて利用できます。また、3階には、感覚への刺激を調整したセンサリールームも設置されています。

センサリールームとは、光や音、におい、触感など、感覚への刺激に過敏な方が、安心して過ごせるように工夫された専用の空間です。

室内には、光ファイバーやバブルタワーなど、光や動きを楽しめる設備のほか、ビーズクッションや畳のスペースも設けています。刺激を軽減するため照明や音響を調整できるほか、座ったり横になったり、少し囲まれた空間で過ごしたりと、自分に合った姿勢や場所を選べます。

落ち着きたいときなど、その日の状態に合わせて利用できるのが特徴です。障害の有無にかかわらず、休憩したり、子どもが人混みなどから一時的に離れて過ごしたりと、さまざまな使い方ができます。特定の人だけのための空間ではなく、誰もが気軽に利用することで、センサリールームを身近に感じてもらいたいという思いも込められています。

こうした空間を誰もが気軽に利用することで、感覚の違いへの理解が広がることも期待されています。一人ひとりに寄り添い、それぞれが自分に合った過ごし方を選べる空間が、地域の中に生まれています。



水中をゆっくり動く気泡や光が、落ち着いた空間を演出するバブルタワー



子どもから大人まで、幅広い世代が集う「こころば」



光の色を変更することもできるので、使う人にあわせたリラックスできる空間になる



気軽にeスポーツを体験できる、本格ゲーミングPCを完備したスペース



キッズパークには、車いすに乗ったまま遊べる遊具も

鹿児島県からのお知らせ

10月16日・17日に農福連携マルシェが開催されます

令和8年10月16日・17日の2日間、鹿児島中央駅AMU広場で「農福連携マルシェ」を開催します。

農福連携とは、障害のある人等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のことです。

県内の障害者就労施設等の利用者が心を込めて作った野菜やお菓子などを多数販売しますので、ぜひご来場ください。

また、県では、一般社団法人かごしま障がい者共同受注センターに農福連携推進専門員を配置し、障害者就労施設等と農業者等のマッチングや相談対応を行っています。

農福連携について知りたい、又は始めたいとお考えの際は、【問い合わせ先】へご相談ください。

【問い合わせ先】
一般社団法人かごしま障がい者共同受注センター
電 話：099-206-5210
FAX：099-250-9358

令和8年度障害者保健福祉大会を開催します

障害者の社会参加への意欲を喚起するとともに、障害や障害者に対する理解と認識を深めることを目的として、障害者保健福祉大会を開催します。

当日は、県知事表彰や体験発表のほか、県内で初めて障害のある人や子ども、高齢者まで海を楽しむことができる「ユニバーサルビーチ」プロジェクトを行っているくすの木自然館の石神愛梨氏による講演などが行われます。



【日　　時】
令和8年11月12日（木）午後1時～午後3時30分
【会　　場】
カクイックス交流センター
（かごしま県民交流センター）県民ホール
【問い合わせ先】
鹿児島県障害福祉課障害者支援室
電話：099-286-2746

「スポーツ・レクリエーション用具の貸出し」を行っています

鹿児島県総合体育センターでは、県民の皆様に、気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しんでいただくため、ニュースポーツ等の用具の貸出しを無償で行っています。貸出しの対象は、公益性のある団体や事業になります。貸出用具については、県総合体育センターのホームページに掲載されている「スポーツ・レクリエーション貸出用具一覧表」をご参照ください。

詳細については、お電話でお問い合わせください。

【問い合わせ先】
鹿児島県総合体育センター（指導課振興係）
電話：099-255-0146

鹿児島県総合体育センター　で検索

11月10日～16日は「アルコール関連問題啓発週間」です

お酒は、生活に豊かさや潤いを与えるものですが、不適切な飲み方は、アルコール健康障害の原因となり、体や心にも悪影響を及ぼすことがあります。

また、飲酒運転や暴力、自殺などの社会的な問題の原因になり、家族への深刻な影響を与える恐れもあります。

この機会に、飲みすぎや未成年者、妊産婦の飲酒など、不適切な飲酒によるアルコール関連問題への関心と理解を深めましょう。

【問い合わせ先】
鹿児島県障害福祉課精神保健福祉係
電話：099-286-2754

ありば
福祉のまちづくり広報誌
Vol.52　令和8年9月30日発行

[感想をお寄せください]
鹿児島県保健福祉部障害福祉課障害者支援室
〒890-8577　鹿児島市鴨池新町10-1
TEL.099-286-2111（内線2746）　FAX. 099-286-5558
[E-mail]shougai@pref.kagoshima.lg.jp
[URL]http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/syogai-syakai/machi/index.html

営利を目的とする場合を除き、この本をそのまま読むことが困難な方のために、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は上記障害福祉課へ御連絡ください。

視覚に障害を持つ方のために、本誌の点字版を鹿児島県視聴覚障害者情報センター（鹿児島市小野一丁目1-1 ハートピアかごしま3F　TEL.099-220-5896）に備え付けてあります。

ページの隅に置かれている、四角い黒い点々は音声コード[Uni-Voice]です。この18ミリ四方の一つのUni-Voiceの中に、日本語で約800字のテキスト情報を格納することができ、専用の読み上げ装置やスマートフォンのアプリ等で読み取ると、そのページの内容を音声で読み上げることができます。なお、視覚に障害のある方にもUni-Voiceの位置が分かるように、ページの縁に切り込みを入れています。

Uni-Voice

R60 古紙パルプ配合率60%再生紙を使用